

乍恐御歎奉申上口演之覚  
 一 私居屋敷之義代々町並諸役  
 御免ニ被仰付難有仕合奉存候  
 然ル所追々勝手向難渋ニ相成候  
 付、先年御願申上御聞届之上  
 貸家ニ仕候処、当春已來灘町目代  
 伊右衛門より右貸家諸役取立之義  
 御願申上、御評儀之上願通りニ  
 被仰付候由被仰渡、甚以恐惑仕候  
 元來諸役御免之義ハ先祖之者  
 勤功も御座候ニ付數代諸構  
 被為仰付置候処、此度右様ニ相成  
 候而者先代旧功も空敷相成  
 候道理ニ而奉沈入候間、乍恐何卒  
 是迄之通御免許ニ被相成置  
 候様奉願候、尤近來不時入用等  
 間々有之候而町内一統困窮  
 仕候由伝承仕候義も御座候間、已後  
 不時入用御座候砌ハ御定法通  
 割符仕、其上聊ニ而も引足不申  
 候ハヽ、目代より貸家者共ヘ相対談シ  
 致し候得者相当之義差出し  
 候様為致申度奉存候間幾重ニも  
 町並諸役之義ハ御免被  
 仰付候様偏ニ宜敷奉願上候、已上  
 年号  
 十一月日  
 御町奉行所當テ